

11.13「吹田9条の会」つどい

貧困は格差と戦争を生んでいる 平和憲法は私たちの宝もの



昨年11月、「9条は日本の宝!吹田のつどい」が、メイシアターで開催された

西谷 本日のゲストは雨宮処凛さんと吉岡力さんです。雨宮さんの経歴を見ていますと、「女性作家でエッセイスト、そして元右翼の活動家でミュージシャン」とあります。ずいぶん色々な顔を持つ人だなあ(笑)と感じます。まず自己紹介を。

オウム事件で
価値感が変化

雨宮 私は1975年生まれの32歳です。いわゆる「団塊ジュニア」です。1993年に高校を卒業した頃は、バブル崩壊後で就職氷河期。正社員になれずフリーターでした。学校を卒業して2年目、95年に阪神大震災、そしてオウム事件が起こります。オウム真理教に走った人は、高学歴の方も多くて、当時からすでに「戦後教育のひずみだ」「物質主義、拝金主義の世の中に対する、若者の反発だ」などと言われたんですね。実は私は中学校、高校でいじめを受け、そんな状況でも「頑張れば報われるんだ」と受験競争の渦中にいたんです。フリーターになってからオウム事件を見て、「教育に裏切られた」と感じました。

95年は戦後50周年でもあったので、テレビや新聞でも戦争特

集が組まれていました。私は「戦争とは何なのか」を知りたかった。まず左翼の集会に行きました。

アメリカに反感
右翼活動に飛び込む

左翼の集会が高卒フリーターの私にとって「全く理解できなかつた」のです。用語も難しいし(笑)。その後、右翼の集会に行きました。するとこちらは非常に分かりやすい。「日本がダメになったのは、戦後アメリカの民主主義のためだ」と。当時はフリーターで「君、明日から来なくていいよ」などと切り捨てられる毎日。定職につけない私は、「だらしない」と言われたりしていたので、「生きづらかった」のです。その時に、「全てアメリカが悪いんだ!」と言われ、何かスツとした気分になりました。結局この団体には2年いて、「何か違う」と感じて辞めました。こうして経験の元、フリーターや自殺願望の人を取材し、25歳で本を出版したのです。

それから10年。私の周りでは、すでに10数人が「生きづらい」と、リストカットやオーバードーズ(睡眠薬などの大量服用)で自殺しています。自殺した人の環境を

と賃下げしてきたのです。納得いかないのが労働相談に行きました。そこで初めて「偽装請負」という言葉を知りました。

西谷 2つの会社がグルになって不正をしている、と気がついたわけですね。でも巨大な会社を相手に裁判するのは勇気がいるでしょ?

吉岡 でも泣き寝入りしたら、私のような労働者は救われたいし、過労自殺した人の例もある。同じ偽装請負の仲間が「どうせ俺の将来はホームレスや」と嘆いたのを思い出して、「ここは起ちあがらなければ」と思ったのです。偽装請負を告発してから、会社は見せしめのような嫌がらせを始めました。さんざんいじめられた後、一方的に首を切られたので裁判に訴えました。

西谷 私も3年前に吹田市役所を退職して、今はフリージャーナリストです。フリーと言うと格好がいいのですが、日本語にすると「無職」(笑)。公務員として働きながら有給休暇でイラク

集が組まれていました。私は「戦争とは何なのか」を知りたかった。まず左翼の集会に行きました。

「命の値段に格差」が生まれ フリーターから全てを搾り取る

雨宮 処凛さん 1975年、北海道生まれ。幼少期からイジメを受け、10代はリストカットと家出、ヴィジュアル系バンド追っかけなどの毎日。00年、自伝「生き地獄天国」を出版し、作家デビュー。現在は新自由主義の中、不安定さに晒される人々(プレカリアート)の問題での著書多数。

吉岡 力さん 松下プラズマディスプレイ偽装請負事件訴訟原告。大阪労働局に松下の偽装請負を告発後、同社に直接雇用されたものの待遇に隔絶されるなどの人権侵害を受け、不当解雇された。期限の定めのない形での雇用を求め、裁判・運動の両方の面で奮闘している。

西谷 文和さん 1960年、京都市生まれ。1985年より吹田市役所に勤務。海外への一人旅を趣味とし、カンボジア、南アフリカ、コンボ、アフガンなど、戦争の爪あとを取材。2004年、吹田市役所を退職し、現在はフリージャーナリストで「イラクの子どもを救う会」の代表。戦争の実態をTVや新聞で訴え続けている。



雨宮 処凛さん

日経連は「少数のエリート
と使い捨て労働者が必要」

雨宮 ニートやフリーターは、「出来が悪いから就職できない」のか、といえそうではないと思います。日経連が95年に発表した「新時代の日本型経営」によれば、これからは世界的な競争に勝ち抜くために、ごく少数のエリートと、激安で使える「使い捨て労働者」が良い、と。終身雇用や年功序列という制度が破壊され、意識的にフリーターが作られているのです。結果として「命の値段に格差」がついています。例えば派遣社員や偽装請負社員は、「死にやすい」のです。アスベストだらけの現場で、マスクもなしに働い

に行っていたのですが、2004年の自己責任論に巻き込まれまして、与党のみなさんから「地方公務員のくせにイラクに行くとは何事」的な風当たりを受けて、辞めました。無職になって感じるのは、国保、年金が高いですね。確かに「生きづらさ」を感じます。



SUITA市民しんぶん